新生児科

診療科の概要

総合周産期母子医療センターおよび大阪新生児診療相互援助システム（NMCS）の基幹病院として、超低出生体重児や重症の新生児疾患などを対象に、院外からも患者さんを受け入れ、24時間集中治療を行っています。超低出生体重児については、脳室内出血、慢性肺疾患、未熟児網膜症などの発症予防に努めるとともに、他の診療科と連携し、先天異常などを有する新生児の集学的治療から在宅移行まで、総合的にマネジメントしています。また、出生前の診療相談（プレネイタルカウンセリング）や、心理士·ケースワーカー·保健師などと連携した支援にも力を入れています。発育·発達の長期フォローアップも丁寧に行い、特に超低出生体重児では学齢期に心理·体力·呼吸機能·聴力などの評価も行っています。さらに、研究にも積極的に取り組み、国内外へ情報発進しています。

主な対象疾患

◎超低出生体重児などの早産・低出生体重児
◎多胎児（双子、三つ子）
◎呼吸器疾患・循環器疾患：気胸、胎便吸引症候群、肺出血、先天性心疾患など
◎中枢神経疾患：新生児けいれん、低酸素性虚血性脳症、水頭症など
◎先天異常：染色体異常、奇形症候群、胎児水腫、ポッター症候群、代謝異常症など
◎外科系疾患
◎その他：重症感染症、重症黄疸、血液・凝固異常、合併症を有するお母さんから生まれる新生児など

主な設備

新生児搬送用救急車、超音波診断装置、各種人工呼吸器（神経調節補助換気（NAVA）を含む）、一酸化窒素吸入用装置、低体温療法装置、aEEG脳機能モニター、広画角デジタル眼底カメラ（Ret Cam®）など

診療実績（2023年）

NICUへの入院患者数は543名で、出生体重別に1,000g未満38名、1,000～1,500g未満29名、1,500g以上474名。新生児緊急搬送は138件で、三角搬送（産科病院から他のNMCS施設へ）は91件でした。

診療科からのお知らせ

入院された患者さんは、状態が落ち着けば早期に地域の周産期センターなどに転院いただくことへのご協力をお願いいたします。また、退院後の予防接種や一般診療は、地域の医療機関における対応をお願いしています。

副院長
和田 和子

部長
望月 成隆

副部長
野崎 昌俊

副部長
平田 克弥

副部長
吉田 美寿々

副部長
祝原 賢幸

医 長
田村 誠

診療主任
木本 裕香

診療主任
福田 沙矢香

診療主任
島 孝典

診療主任
髙久保 圭二